

	公的なネーミング	業界内ネーミング	内容
従来（過去）	空飛ぶ車	空飛ぶ車	安全性への配慮が不十分
25年4月1日	空飛ぶ車	安全な空飛ぶ車（船） （常態化するまで）	全国の市町村で準備開始 （運用面と輸出産業化）
将来的には	空飛ぶ車・船	空飛ぶ船・空飛ぶ車	用途別で細かく分類する。

大阪万博では「空飛ぶ車」を目玉にし、ANAホールディングス、日本航空、丸紅、SkyDriveの4社が担当することにはなっていたものの、いずれも経験豊富な量産技術を持っておらず（＝最初からやる気がなかったとも受け止められますが・・・）危険なので、デモ飛行を中止しています

日本低迷の縮図として、国交省・経産省・東京都・長野県（飯田市）等の「空飛ぶ車」の取り組みを紹介しますと、安全飛行の議論が全くなしに進めておられ、また、全国の共通課題なのに、地域ごとに「空飛ぶ車」を進めようとしています。

本気モードへの転換

低空飛行で落下前提の安全な空飛ぶ車への転換

高い

落下頻度

低い

撮影用や農薬散布等の小型ドローンの原因不明の落下事故は全国で頻発をしている。ドローンはよく落下するというイメージがある

空飛ぶクルマは、一般部品で経験豊富な量産技術を持たないベンチャー企業がつくるので、自衛隊のヘリに比べ落下頻度が高くなる

ミリタリー規格（高価・高精度・高規格）の部品を使い、実績のある経験豊富な企業でつくられる自衛隊のヘリでさえ時々落下する

安全飛行の技術的  
概念が抜けている。

撮影用等の小型のドローンの落下事故は全国で頻発している。(ドローンはよく落下するものである。) ミリタリー規格で高価な自衛隊ヘリも時々死亡事故が発生する

落下しても安全な仕様にすべきである。  
再エネ化及び生活空間としての位置づけも付加

- 東京都における空飛ぶクルマのユースケースや社会実装に向けた課題、課題解決に向けた取組などを議論
  - 東京都の将来的なビジョンを示したうえで、具体的な実装ステップを設定し、飛行可能な経路から戦略的な事業展開を図る必要性
  - 空飛ぶクルマの利活用（ユースケースの実現）に向けては、既存プロジェクトの成果も踏まえつつ、官民連携により、「社会受容性の向上」、「利活用（拠点飛行等）」、「環境整備」を同時に、総合的に検証する必要性
  - 運航、離着陸場の確保など、事業立上期においては一部行政支援が求められており、官民の役割分担の在り方や事業者連携を図る仕組が必要

→上記議論を踏まえ、「ロードマップを精緻化」し、商用運航に向けた「実装プロジェクト（案）」を構築

安全で便利なら世界中で超特需要がある

安全飛行検討会が必要

他県と共同か国策で進めるべき

具体的な運用方法の検討会が必要

回次	開催日	主な議論
第1回	2024年8月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 事業者ヒアリングを踏まえた論点整理</li> <li>✓ 「空飛ぶクルマ」利活用の検討の方向性について</li> <li>✓ 社会受容性向上に向けた取組について</li> </ul>
第2回	2024年10月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 追加ヒアリングを踏まえた課題整理</li> <li>✓ 実装プロジェクトの方向性（素案） 将来ビジョン、ロードマップ、実施スキームの検討</li> </ul>
第3回	2024年12月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 実装プロジェクト（素案） ①取組の背景、②空飛ぶクルマの社会実装に向けた課題、③課題解決に向けて、④実施スキーム</li> </ul>
第4回	2025年1月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ロードマップの精緻化</li> </ul>

# 信州次世代空モビリティ活用推進協議会体制

3/27(木)9時時点



名称 信州次世代空モビリティ活用推進協議会

運営体制

- ・【会長】 信州大学 航空宇宙システム研究拠点長 工学部 教授 佐藤 敏郎先生
- 東京大学名誉教授、東京大学未来ビジョン研究センター特任教授 鈴木 真二先生
- 信州大学 工学部 特任教授 不破 泰先生
- 長野県企画振興部参事（デジタル化推進担当）小島 隆夫先生
- 長野県DX推進課、デロイトトーマツコンサルティング(同) 野村 浩一先生

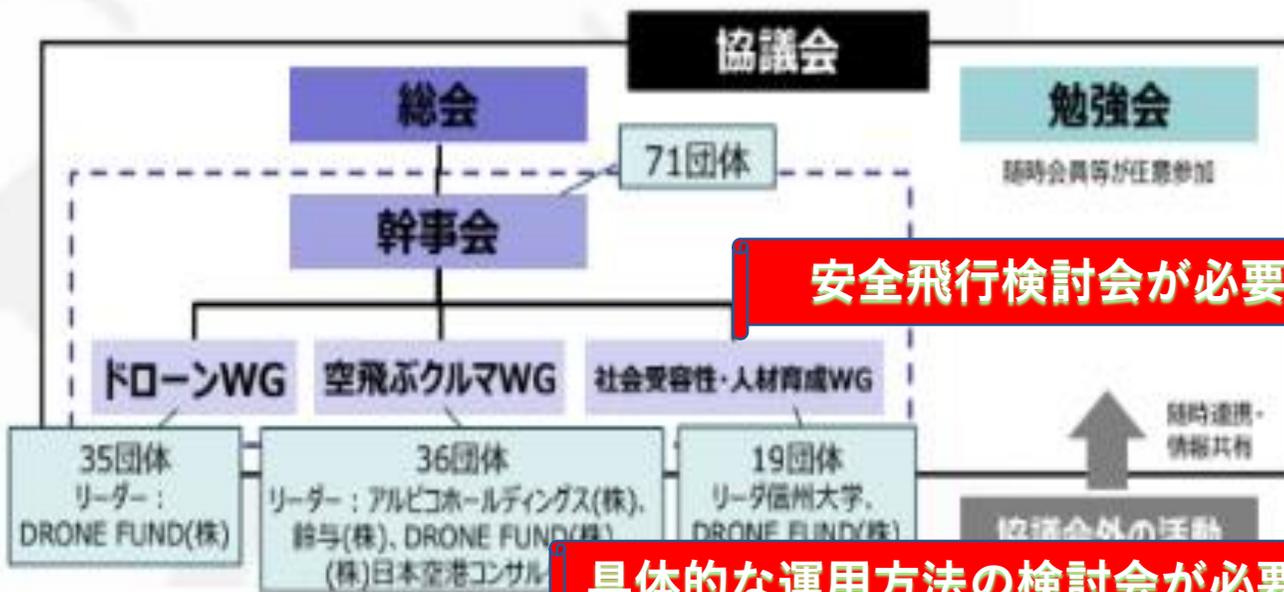
参加者・参加企業が増え刻々と変わることの意味している

他県と共同  
か国策で進  
めるべき。

実質的な安全飛行の議論をせず、  
ネームバリューを強調した形式的  
な権威のみを偏重している体制。

・ 協議会会員団体数： 165団体 ※オブザーバー含み、参加団体名非公表の団体数含む

区分	団体数
教育機関	4
民間企業・団体	129
県内自治体	24
国の機関	3
県外自治体	5
合計	165



安全飛行検討会が必要

具体的な運用方法の検討会が必要

講演 ①

13:05 ~ 13:25

「空飛ぶクルマの登場と広がる『空』の可能性」

株式会社日本政策投資銀行 産業調査部兼航空宇宙室 調査役 岩本 学氏

休憩・展示見学(20分)

講演 ②

13:45 ~ 14:30

「空の移動革命への挑戦 ～日本発空飛ぶクルマと物流ドローンの開発～」

株式会社SkyDrive 代表取締役CEO 福澤 知浩氏

講演 ③

14:30 ~ 14:50

「空飛ぶクルマを活用するために、準備しておくこと」

川崎重工業株式会社 航空宇宙システムカンパニー 新事業戦略総括部 新事業推進部 基幹職 堀井 知弘氏

講演 ④

14:50 ~ 15:05

「次世代空モビリティの実用化に向けた動きと信州大学飯田サテライトの活動」

信州大学 航空機システム共同研究センター 航空機システム研究拠点航空機システム部門 副部門長 柳原 正明氏

休憩・展示見学(20分)

パネルディスカッション

ディスカッションテーマ

南信州地域における空の移動革命の可能性

エリア・三遠南信時代を見据えて「利活用」と「ものづくり」の視点から考える



具体的な飛行ルートも提案されていないのに地域を限定する意味がない

日本のドローンの技術レベルはとて低く、日本市場は中国 (DJI) に席卷されている。

※入退室可、セミナー中見学可

安全飛行検討会が必要

ひどい内容にクレームをつけようにも、連絡が取れない。

パネリスト (五十音順)

飯田市長  
川崎重工業株 基幹職  
株SkyDrive 代表取締役CEO  
多摩川精機株 専務取締役  
長野県企画振興部DX推進課 課長

佐藤 健  
堀井 知弘氏  
福澤 知浩氏  
熊谷 秀夫氏  
永野喜代彦氏

出典:経済産業省ウェブサイト(https://www.meti.go.jp/policy/mono\_info\_service/mono/robot/181220uamroadmap.html)

コーディネータ:日本政策投資銀行 岩本 学氏